

理科学力向上プラン

和光市立第二中学校

学力向上にかかわる学校経営方針

- 生徒の実態、学力調査等のきめ細かな分析により、改善への方策を明確にする。
- 言語活動の充実を図り体験的な学習を取り入れた授業展開をすべての教科、領域で積極的に実施するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。
- 学習のねらいと振り返りの場面の設定を明確にし、基礎的、基本的な学習の定着と活用力の育成に努める。
- 少人数指導やチームティーチングを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- ICT機器を積極的に活用し、生徒の主体的な授業参加により、情報活用能力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- 朝読書や図書館教育を充実させ、生徒の読書力を伸ばし、生き方を考え、生徒の教養を高める。
- 生徒一人一人に応じた、きめ細かな指導を進める。
- 通常学級における支援を必要とする生徒への指導体制の整備を進める。
- 授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にとってもわかりやすい授業づくりに努める。
- 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の充実を図る。

現状と課題

- ・観察・実験を積極的に行う生徒が多いが、結果を考察につなげられない生徒もいる。
- ・密度、回路、オームの法則、熱量、力、仕事などの現象について数値化できない生徒が多い。
- ・知識・技能を使い、科学的な思考で問題に対し仮定を立てられない生徒が見られる。
- ・確かな知識や語句、公式などの定着が不十分な生徒もいる。

課題解決のための方策

- ・実験・観察の結果を使って考察につなげられるように十分な時間を確保する。
- ・計算力をつけるために、計算をさせる場面を増やし、繰り返し行う。
- ・課題解決学習を意識した授業を展開し、自分の考えを持たせ実験や観察を行う。
- ・基本的な知識や語句、公式の定着を図る授業の展開を心がける。

授業における指導の工夫

- ・1時間に1実験を目標にし、課題解決をさせる場面を増やす。
- ・実験器具を増やすなどして生徒全員の観察・実験技能の向上を図る。
- ・学習してきた内容を元に、生徒が主体的に実験ができるように工夫する。
- ・基本的な知識・理解を定着させるために小テストや問題を出し合うなどの活動を定期的に取り入れる。
- ・復習を習慣化させ、しっかりと語句や公式の定着をさせる。
- ・計算力をつけるため、多くの計算問題に取り組ませる。
- ・ICTや実物、モデルを活用し、生徒に興味を持たせることに加え、写真や言葉だけでは理解しがたい仕組みや構造を、より正確に捉えさせる。
- ・話し合い活動や発表を通して、現象を科学的な思考を使って説明できるようにさせる。
- ・生涯にわたって科学に関心を持ち続けられるように、身近な現象を取り扱うとともに、学ぶ意義についても目を向けさせる。